

三浦市立南下浦中学校「総合的な学習の時間」の支援

神奈川地方協力本部横須賀地域事務所（所長 森越3海佐）は、2月5日、6日の2日間、三浦市立南下浦中学校の2年生に対する総合的な学習の時間を支援した。

南下浦中学校でこの学習の時間を「自衛隊で行いたい」と希望した生徒がいたことから昨年より2年連続で実現したものである。

1日目の海上自衛隊第2術科学校では潜水医学実験隊の潜水プールを見学し深いプールをみて「すごい！」と驚きの声をあげていた。2日目は陸上自衛隊第117教育大隊で行われ、天幕設営の研修では「この天幕は防火なんですか？」など熱心な質問が寄せられた。

横須賀地域事務所は、「総合的な学習の支援などで仕事として自衛隊を考える機会を重要にとらえ今後の募集成果につなげていきたい」としている。



ロープワーク



天幕の中で

就職援護フェアに参加

「今後の再就職に向け、民間企業の仕事を知る良い機会に」

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 夏井1海佐）は、2月13日（木）・14日（金）の両日、久里浜駐屯地において、一般社団法人自衛隊援護協会が実施する「令和元年度就職援護フェア」に参加した。就職援護フェアに参加したのは、県内外の陸・海・空自衛官約270名。自衛隊を退職後、神奈川県内で再就職を希望する隊員並びにその就職指導を行う中隊長などが対象で、参加者は更に再就職に向けた意識の向上を図ることができた。

本年度も業種説明会が2日間実施され、県内の援護協力企業や自衛隊OB就職先企業など約60社（約120名）がブース形式で参加し、企業の採用担当者や自衛隊OBの実体験を直接聞く事ができる貴重な機会とあって、各ブースには多くの退職予定自衛官等が再就職に向けた準備の為、熱心に耳を傾け情報収集を行った。

また、パネル展示コーナーにおいては、再就職先で活躍する定年・任期制隊員の声「OBがんばる」や「再就職時の失敗談」の記事の他、再就職規制並びに資格関連等の記事を掲示し、多くの隊員が興味深く注目していた。

参加隊員からは、「再就職に対する不安がなくなりました」「こういった機会を増やして欲しい」といった大変貴重な意見が寄せられ、充実した就職援護フェアとなった。

神奈川地方協力本部は「今後も各種イベントを通じ、自衛隊や雇用企業とのさらなる密接な協力関係を保ち、就職の援助に対する理解促進と意識改革を図っていく」としている。



1日目



2日目